

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業（22社）

【広告・メディア】（10社）

博報堂 DY ホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBS ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、KADOKAWA、東宝、東映

【エンタテインメント】（12社）

コーエーテクモホールディングス、ネクソン、コロプラ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、オリエンタルランド、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは 30 名（所属先 24 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、評価分野のうち主に ESG 関連の項目内容・配点を見直しているため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 64.6 点（昨年度 65.9 点）、総合評価点の標準偏差は 8.1 点（昨年度 8.9 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（10 社）が 64.0 点（昨年度 64.1 点）、エンタテインメント（12 社）が 65.2 点（昨年度 67.6 点）となった。なお、個社で見ると、東宝（+9.6 点）の上昇が目立った。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が67%（昨年度68%）、**説明会等**が64%（昨年度68%）、**フェア・ディスクロージャー**が70%（昨年度74%）、**ESG関連**が65%（昨年度67%）、**自主的情報開示**が54%（昨年度50%）となった。昨年度に比べ、**自主的情報開示**を除く4分野において、得点率が下がった。
- ④ 評価項目（全11項目）について見ると、平均得点率が80%以上となった項目はなかった。一方、次の**自主的情報開示**の項目は、昨年度に比べ平均得点率がやや改善したものの、引き続き最も低い水準となった。下位評価企業には、さらなる改善努力を求めたい。
- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率54%〔昨年度50%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：30%台4社・40%台8社・50%台2社・60%台3社・70%台4社・80%台1社）
- ⑤ **ESG関連**の4項目は、次のとおりとなった。なお、(d)の平均得点率は50%台となった（同項目の内容については、本年度において見直している。）。
- (a) 「統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。その中で、価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率69%〔昨年度同率〕）（得点率：30%台1社・40%台1社・50%台3社・60%台5社・70%台7社・80%台5社）
- (b) 「環境保全（E）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか」（平均得点率68%〔昨年度69%〕）（得点率：40%台1社・50%台2社・60%台7社・70%台11社・80%台1社）
- (c) 「社会（S）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか（例えば、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関する事項を定量的・積極的に開示していますか）」（平均得点率71%〔昨年度69%〕）（得点率：50%台1社・60%台10社・70%台7社・80%台4社）
- (d) 「ガバナンス（G）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。不祥事等が発生した際に適切に対応し開示していますか。また、社外取締役の選定・役割が適切で、ガバナンスの有効性や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が説明されていますか。これらの課題に関して、投資家の理解が深まるように、積極的に対話を進めていますか」（平均得点率56%〔昨年度60%〕）（得点率：40%台5社・50%台8社・60%台8社・70%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 セガサミーホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔2回目〕、

総合評価点78.4点〔昨年度比+0.7点〕、昨年度第2位〕

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（得点率（以下省略）81%）、**説明会等**（82%）が第1位、**ESG関連**が第2位（77%）、**自主的情報開示**が第4位（74%）、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第6位（71%）となった。昨年度に比べて、**自主的情報開示**の得点率が大きく改善した。これらの結果、同社は7年振りの第1位受賞となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、「経営陣のIR姿勢」が最も高い評価となり、「IR部門の機能、基本スタンス」も同得点第2位となった。これらに関連して、経営トップは株式市場との対話に積極的に取り組んでおり、投資家やアナリストの意見を経営に反映させようとする姿勢があるとの声が寄せられた。また、説明会の頻度、質疑応答への対応など、IRへの熱意を感じるとの声もあった。IR部門については、専門性が高く、ディスカッションも有益であるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が共に最も高い評価となった。これらに関連して、説明会、取材では丁寧かつ詳細に対応しているとの声や、決算説明会資料等の内容は質・量共に充実しているとの声が寄せられた。なお、IP別

の情報開示について一層の充実を期待する声があった。

- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第7位となり、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第9位となった。これらに関連して、事業説明会の資料やトランスクリプトは内容が充実し参考になるため、より広く開示することを望む声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、4項目がいずれも第2位（同得点第2位を含む。）となった。これらに関連して、統合報告書を通じて ESG 情報の開示に意欲的に取り組んでいるとの声が寄せられたほか、財務面において最適資本構成等の要素を取り入れている点を評価する声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第4位（昨年度同得点第7位）となり、昨年度に比べ、得点率が大きく改善した。有益なイベントとして、ゲーミング事業説明会を挙げる声が多く、そのほかに IR デー、TGS でのツアーを評価する声があった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 KADOKAWA （総合評価点 75.0 点 [昨年度比-1.4 点]、昨年度第3位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第1位(85%)、**説明会等**が第3位(74%)、**経営陣の IR 姿勢等**(77%)、**ESG 関連**（73%）が第5位、**自主的情報開示**が第6位（69%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が同得点第2位となった。IR 部門については、専門性が高く、情報量も豊富との声があったほか、グループディスカッションの開催を評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」は第6位となった。これに関連して、経営トップが投資家との対話にも積極的に取り組んでおり、自分の言葉で説明しているとの声が寄せられた。また、IR イベントの積極的な開催を評価する声があった。なお、業績実績に対して過大に評価する傾向があるとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が第3位となり、「説明会、インタビューにおける開示」は同得点第5位となった。これらに関連して、説明資料は詳細なデータを記載するなど徐々に改善しているとの声のほか、取材対応が優れているとの声もあった。なお、手元資金を含むキャピタルアロケーションの説明や、ゲーム子会社に関する開示について一層の充実を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」が共に最も高い評価となった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「環境保全（E）に関する項目」および「ガバナンス（G）に関する項目」が共に同得点第2位となった。また、「社会（S）に関する項目」が第5位に、「統合報告書等に関する項目」が同得点第10位となった。これらに関連して、統合報告書を通じて ESG 情報の開示を進めている点や、サイバー攻撃に対する迅速な開示を評価する声があった。なお、ソニーグループによる第三者割当増資について、株主への十分な説明を求める声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第6位となった。有益なイベントとして、アニメ事業説明会を挙げる声が多かった。

第3位 バンダイナムコホールディングス （総合評価点 74.2 点 [昨年度比+0.4 点]、昨年度第6位）

- ① 同社は、**自主的情報開示**が第3位（75%）、**経営陣の IR 姿勢等**（78%）、**説明会等**（73%）、**ESG 関連**（73%）が第4位、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第9位（70%）となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第4位（昨年度第7位）となり、「IR 部門の機能、基本スタンス」も第5位（昨年度同得点第9位）となった。これらに関連して、経営トップが積極的に取材に対応するなど、株式市場との対話機会を増やそうとする姿勢があるとの声が寄せられた。なお、経営陣と市場参加者との対話機会の定期的な設定を期待する声があった。IR 部門については、ディスカッションで得られる情報の信頼性が高いとの声や、アナリストや投資家のニーズに対して前向きに対応しているとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」および「説明資料等（短信およびその付属資料

を含む)における開示」が共に第4位となった。これに関連して、説明会、取材では丁寧かつ詳細に対応しているとの声があったほか、決算説明会資料等の内容は質・量共に充実しているとの声があった。なお、主要ゲームタイトルの販売本数の開示を期待する声があった。

- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第7位となった。「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は第14位であった。
- ⑤ ESG 関連においては、「ガバナンス (G) に関する項目」が第4位となった。また、「環境保全 (E) に関する項目」が同得点第5位、「統合報告書等に関する項目」が同得点第6位となった。「社会 (S) に関する項目」は同得点第8位であった。これらに関連して、統合報告書を通じて ESG 情報の開示に意欲的に取り組んでいるとの声があったほか、ESG 主要項目 (女性活躍、プラスチックリサイクル等) において、目標値の設定・開示が行なわれるとさらに良くなるとの声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会 (IR デーや記者発表会等を含む) を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第3位となった。有益なイベントとして、中期計画の説明会のほか、ガンダムや人材育成に関するスモールミーティングを挙げる声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

- 東宝 (ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 71.4 点 [昨年度比+9.6 点、一昨年度比+22.7 点]、第 7 位 [昨年度第 12 位、一昨年度第 19 位])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が同得点第2位 (78%)、フェア・ディスクロージャーが第4位 (74%)、説明会等が第6位 (69%)、自主的情報開示が第8位 (64%)、ESG 関連が同得点第9位 (68%) となった。昨年度に比べ、経営陣の IR 姿勢等および自主的情報開示の得点率が大きく改善し、総合評価において 9.6 点のアップとなった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第2位 (昨年度第15位) となり、昨年度に比べ、得点率が 20 ポイント以上改善した。これに関連して、最近では事業説明会や経営トップの対応による説明会の開催など、積極的な IR 活動をしているとの声が寄せられた。また、経営陣が投資家との対話をするようになったとの声もあった。「IR 部門の機能」は第8位 (昨年度第11位) となった。これに関連して、企業価値向上に向けたディスカッション・意見交換ができるようになってきたとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が同得点第5位となり、「説明資料等 (短信およびその付属資料を含む) における開示」が第8位となった。これらに関連して、経営トップが自らの言葉で説明する場面が多いとの声があったほか、決算説明会資料の内容は質・量共に十分との声があった。なお、アニメ事業関連の開示の充実を評価しつつ、さらなる工夫 (取組手法、過去データ等) を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第3位となった。これに関連して、興行や営業成績の月次公表は、現状を理解する上で有益との声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、4 項目のうち 3 項目において、昨年度に比べ得点率が改善した。統合報告書を初めて発行し、その内容も充実しているとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会 (IR デーや記者発表会等を含む) を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第8位 (昨年度同得点第16位) となり、昨年度に比べ、得点率が 30 ポイント以上改善した。有益なイベントとして、アニメ事業説明会を挙げる声多く、そのほかに、映画のパイプライン発表を評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以上

2025年度の具体的評価項目および配点（広告・メディア・エンタテインメント）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
<p>・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かし、株主価値向上に努めていますか。</p> <p>【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
<p>・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。</p> <p>【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
<p>・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。</p> <p>【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
<p>・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすかつ十分に記載されていますか。</p>	10
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
<p>・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。</p> <p>【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】</p>	4
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
<p>・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響、会社にとって不都合な事象等）の開示は、迅速かつ十分ですか。</p>	6
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。その中で、価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	8
②環境保全（E）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。	6
③社会（S）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか（例えば、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関する事項を定量的・積極的に開示していますか）。	6
④ガバナンス（G）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。不祥事等が発生した際に適切に対応し開示していますか。また、社外取締役の選定・役割が適切で、ガバナンスの有効性や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が説明されていますか。これらの課題に関して、投資家の理解が深まるように、積極的に対話を進めていますか。	10
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください（新たな追加項目で企業も関心が高い項目なので、積極的にコメントしてください）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
<p>・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。[過去1年間を目安に評価]</p> <p>【充実していたサービスないし施設・設備・事業名をコメント欄に記入して下さい】</p>	10

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部会長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	山村 淳子	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（30名）

浅川 直騎	朝日ライフ アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
安部 将行	大和証券	樋口 夏子	三井住友トラスト・アセットマネジメント
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	福井 悠香	第一生命保険
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	福田 聡一郎	東海東京インテリジェンス・ラボ
大場 剛平	野村アセットマネジメント	前田 栄二	SMBC 日興証券
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	三木 成人	野村証券
岸本 晃知	みずほ証券	三村 恭祥	いちよし経済研究所
城戸 謙治	アセットマネジメント One	森田 正司	岡三証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	安田 秀樹	東洋証券
栗原 智也	SBI 証券	山科 拓	マコーリーキャピタル証券会社
高 英詞	野村アセットマネジメント	山田 健三郎	東海東京インテリジェンス・ラボ
阪口 和輝	大和証券	山村 淳子	JP モルガン証券
関根 哲	大和証券	米島 慶一	シティグループ証券
長尾 衛	三菱 UFJ アセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。